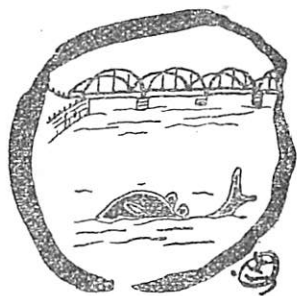


大津繪ぶし

一より十まで

一から十まで廻りきけハ 岸の里へはもう一里。一字千金 二千金。
勘平どのハ三十に。四十にちかい身をもつて。道はかわらぬ五條坂。
六角堂へお百度も 七年いぜん信田にて狩りだされ。江戸は八百八
町まち。京九重に香ひぬる 十念のめうがう 百になつても おど
り忘れませぬ。



鮑 あわび

貝 かひ

笑福亭 松 鶴

カッ ト 三遊亭 三 藏

落語家の社會に限りまして、どうしても亭主より嬖の方が二三枚役者が上手に出来て居ります。何時も亭主はヘナチヨコで御座ります。

「今時分まで何處をキヨロ／＼遊び歩いてるね、情無い人やなア、御飯を食べたら家を出てしまふ、まるで鳩みたくない人や、餌が欲しならんと戻つてきやへん、何處へ行つてたんや」

「萬さんに逢ふたら、お城の堀から乙姫さんが出はると云ふさかいに見に行つたんや、けど一寸も出て來やへん、今日は休みかいなと思ふて戻らうと思ふて居ると藤助はんに逢ふたんや、そんなら天神橋へ行つといで鯨が顔を上げて居ると云ふたよつてに、又走つて見に行つたけれどいやへん」